

## 令和2年度 学校自己評価システムシート(各種学校 インストラクショナル ティー・エス レクレーション)

目指す学校像	建学の精神 「学ぶことの大切さ」を知り「多文化共生への理解」を深め「日本と世界の架け橋」となること
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>日本で安心して生活できるように日本語及び日本社会の生活習慣を学び、身につける。</li> <li>母国語ポルトガル語の習得を目指すと共に他国地域との違いを理解する。</li> <li>生徒の進路指導の充実をはかる為、国内外の大学進学と連携して入学基準に沿ったプログラムの構築及び推進。</li> <li>保護者及び地域社会とのコミュニケーションづくりの推進。</li> </ol>
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	2名
	事務局 (教職員)	6名

学校自己評価					年度評価 (3月31日現在)		
番号	現状と課題	年度目標	具体的方策	方策の評価指標	年度評価 (3月31日現在)		
					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>○日本で生まれ育った子供たちが多くが、家庭環境により日本語能力や学習意欲に大きな格差がある。そのため、個々の能力や意欲に応じたきめ細かい指導が求められている。</p> <p>○日本の習慣、及び伝統・文化について、授業、学校行事等でどのように教えていくかが課題である。</p>	<p>○日本語の基礎学習の定着と学習意欲の向上を図る。</p> <p>○日本の習慣、及び伝統・文化の理解。</p>	<p>○少人数学級(複式学級)による一人ひとりにあった授業展開、学習指導。</p> <p>○書道教室(月1回、2H)、による日本語、漢字への興味・関心の向上を図る。また、昔からの日本の伝統・文化にも触れる。</p> <p>○漢字検定や日本語能力試験の受験。</p> <p>○料理教室や社会科見学を通じて、日本の習慣、伝統・文化に触れる機会を設けた。</p>	<p>○少人数学級授業、及び一人ひとりへのきめ細かい学習指導による成果。</p> <p>○書道教室、漢字検定試験や日本語能力試験受験による日本語、漢字への興味・関心を引き出し、日本語の学習意欲の向上を引き出せた。</p> <p>○書道教室、料理教室、踊り、着付けそして社会科見学等を通して、日本の習慣、伝統・文化に触れることができた。</p>	<p>○少人数学級による授業、及び一人ひとりへのきめ細かい学習指導による教育効果は大きい。</p> <p>○書道教室は日本語、難しい漢字への興味・関心を楽しみの中で生じさせ、日本語への学習意欲向上をはかれた。</p> <p>○漢字検定、日本語能力試験は自己の日本語力の伸びが実感でき、自主的に受験する子が増えた。</p> <p>○感染対策の一環として料理教室等の活動が大幅に制限されたため、伝統・文化に触れる機会が少なかったが、オンラインに知見を広める事が出来た。</p>	A	<p>○より一層、日本語学習の意義を理解させ、子どもたちの日本語学習の意欲、学力の向上を図る。</p> <p>○書道教室は学習意欲向上のため引き続き実施。</p> <p>○漢字検定、日本語能力試験についても更なる上の級・レベルの受験を目指す。</p> <p>○コロナ禍においても引き続き、日本の習慣、伝統・文化に触れる機会を計画する事は大切であり、早期の活動再開に期待したい。</p>
2	<p>○日本で生まれ育った日系外国人の多くは、母国語を学べる場所が少なく、保護者とのコミュニケーションが図れない学生や、語学力はあるが伝統や文化を知らない学生が多く見受けられ、アイデンティティ・ロストという問題に直面している。ポルトガル語を必須科目とし文学的知識の向上や国際・社会の問題への理解力を高め、グローバル化する国際社会に通ずる人材の育成が課題である。</p>	<p>○母語・ポルトガル語の基礎学力の定着、学習意欲の向上。</p> <p>また、本国同様のカリキュラムを組み一層の教育の充実を図る。</p> <p>○母国ブラジルの習慣、及び歴史・伝統・文化の理解。</p> <p>○他国の習慣、及び歴史・伝統・文化の理解。</p>	<p>○本国の教科書を使用し、本国同様のカリキュラムでポルトガル語は週5H、他の教科もポルトガル語で教えている。</p> <p>○加えて日本語の授業もあるの1日1授業を実施。</p> <p>○インタナショナルDayへの参加</p>	<p>○本国の教科書使用、本国以上のカリキュラムを組み、母語ポルトガル及び他教科の教育に力を入れてきたが、基礎学力、学習意欲の向上に結び付いたかどうか。</p> <p>○母国ブラジルの習慣、歴史、伝統・文化の理解はどうだったか。</p> <p>○他国地域の習慣、歴史、伝統・文化の理解はどうだったか。</p>	<p>○今年度より多文化共生理解を深めるため、ポルトガル語を主とする活動のみでなく、他国間地域に渡り生徒が自主的に調査及び発表出来る機会を設け、さらなる学習意欲の向上が高められた。</p> <p>○国際理解をより一層深めるため、英語の授業をより一層充実する必要性が見受けられ、多数の生徒や保護者からも英語授業の拡充要望を受けた。</p>	B	<p>○英語教育の充実を図る為、英語圏への文化実習の検討や、現地の英語教師の積極採用を進め、会話能力・読解力・リスニング能力・作文能力の基本的英語能力の向上、さらに国際社会問題や多国間に関する課題についてエッセイやレポート、スピーチ能力を向上し、総合的学習意欲の向上を目指す必要がある。</p>
3	<p>○過去卒業後ブラジルの大学に進学する生徒が多数を始めたが、近年日本で定住化する動きが見られ、国内の大学に進学しより良い就職先を求めようになった事を受け、しっかりと将来設計と、そのための勉強が出来る大学に合格出来る学力・実力を身に付けさせる必要がある。</p>	<p>○進路指導</p> <p>○保護者理解</p> <p>○情報提供及び共有</p>	<p>○高等課程の生徒に向け、大学進学説明会を実施するとともに、個別ヒアリングを通して大学進学への可能性を検討。</p> <p>○保護者説明会を展開し保護者の理解を深める。</p> <p>○大学への訪問やオープンキャンパスへの参加を通してアドミッションポリシーの確認生徒と情報共有を行う。</p>	<p>○学生の不安要素(日本語能力・入学費・生活費等)などを払拭し、進学実現に向けて具体的な資料をもって説明し理解してもらえたかどうか。</p> <p>○日系外国人の現状(単一労働者の問題)を説明し、高等教育の重要性をいかに理解してもらえたかどうか。</p> <p>○奨学金制度の資料や説明を通して進学に対する抵抗感をいかにして和らげるか。</p>	<p>○今年度の高校課程の生徒には国内の大学に進学を希望する学生が少なく、指定校推薦枠での入学が実現されず、継続的な周知が必要。</p> <p>○大学合格者が出たが、進学に当たり経済的理由で辞退され、事前に進学に係費用や生活費等の情報共有が必要である例: 国の奨学金制度の周知の徹底等</p>	B	<p>○日本の大学のみならず、国外の大学に進学出来るよう、英語教育を重点的にを行い、より多くの選択肢を与える必要がある。</p> <p>○保護者説明会時に、優秀な学生の保護者には理解して頂いたが、成績が振るわない生徒の保護者からは理解が得られなかった。進学費用や、生活費等の不安があり国内に制度等を活用できるようにしたい。</p>
4	<p>○子どもたちの通学範囲が広域に及び、特に遠距離の保護者は直接来園して教育活動を見聞する機会が少ないので、インターネットを活用し、発信する。</p> <p>○地域社会や公立学校との交流、及び情報の発信を進める。</p>	<p>○保護者、地域社会、公立学校に開かれた学園づくりの推進。</p>	<p>○学園のホームページによる情報の発信。→ポルトガル語版及び日本語版の一層の充実(子どもたちの学園生活、行事等の写真、動画等掲載)。</p> <p>○学校行事等への保護者・家族参加、地域・学校への参加呼びかけ。豚の丸焼き祭、ウニカス里実施の祭等のポスター掲示、チラシの配布。</p>	<p>○ホームページの毎年更新(特に日本語版)、内容を充実し、更新できたかどうか。</p> <p>○学校行事等への保護者、家族の参加、地域住民・公立学校の子どもの参加はどうだったか。</p>	<p>○学校行事に係る情報提示をインターネット上でを行い、適切な情報提供をすることができた。</p> <p>○コロナの影響を受け殆どの学校行事は中止となり、年度評価を実施するに至らなかった。</p> <p>○公立学校との交流・学校見学はコロナ禍において実現できなかった。</p>	B	<p>○これからもインターネットによる情報の発信を、内容を改善しつつ発信していく。</p> <p>○保護者への学校行事の参加呼びかけは当然だが、可能な限り地域社会にも呼びかける。</p> <p>○公立学校との交流・学校見学についても考えていきたい。</p>

学校関係者評価	
実施日	令和3年4月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>○各種検定や調理等の体験学習を通した取り組みにより、積極的に日本語学習を行う生徒が、増えて来たのは、一定の成果と言える。これからは日常生活の中で日本語を使用できるようにすることが大きな課題です。</p> <p>○学校行事の殆どが中止に追い込まれたが、感染対策をした上で、少人数での活動を増やしたことにより、生徒一人ひとりに対しより細かな学習が出来たのは大変意義あることだと思う。</p> <p>○漢字は難しいけど、書道は筆を使って描いたのが楽しかった。</p>	<p>○日常的な会話に関してはどの生徒も積極的に学習に取り組んでいる。教科に関しては、学習意欲に差があり、授業の進め方に戸惑うこともある。</p> <p>○中学生、高校生は落ち着いて勉学に励む生徒が増えてきた。まだ、学力差はあるが、学園生活、学習の中心となる生徒を育てることにより、全員の学力向上を図っていきたい。</p> <p>○学生の国際的な視野を広げるための取り組みの拡充が必要不可欠であり、英語圏への留学支援、語学研修プログラムの構築、TOEFL、ILTSテストの指導や、学生の英語レベルに応じ、ESL式の語学習得の継続的な取り組みが必須である。</p>
<p>○国内に在るブラジル人学校の中では、初めての大学指定校推薦枠を受けたことは画期的な取り組みであり、さらに多くの進学先を確保することが望ましい。日系外国人の多くは定住することを求めており、保護者は大学進学しよりよい職業に就職出来るよう期待している。</p> <p>○多くの海外大学や国内の国立大学でもIBディプロマを取得した学生の受け入れを拡大しており、当学園もIBプログラムについて調査を実施し、グローバル社会に通ずる人材の育成及び環境の整備が急務である。</p>	<p>○学園のホームページを見て入学してきた子供もいるので、ホームページの充実は大変大切なことだと思う。</p> <p>○本年度はコロナの影響を受け学校行事の殆どを取りやめ、地域との交流が進まなかったが、状況が改善し次第、順次行事を行えるようにしたい。</p> <p>○各学期終了後のオンライン保護者懇談会は今後も積極的に続けて欲しい。</p>